

「岩戸隠れ」に学ぶ

志津小学校長 辻 太久郎

日本書紀や古事記に登場する「岩戸隠れ」伝説は、皆さんもご存じだと思います。スサノオノミコトの乱暴ぶりに怒ったアマテラスオオミカミが岩戸の内に隠れてしまい、世界が暗闇に包まれたという内容です。困った神々は相談の末、岩戸の前でどんちゃん騒ぎを始めます。アメノウズメという神は、個性的な踊りを披露し、それを見た神々は皆大爆笑です。その笑い声を聞いたアマテラスオオミカミは、何事かと岩戸を少しだけ開けて覗こうとしました。そのチャンスを逃さず、力持ちの神が岩を引き開け彼女を引っ張り出し、再びこの世に明かりが戻りました。

古事記や日本書紀の登場人物や出来事は、その時代の自然的自然現象や日本人々の営み、日本人間心理を象徴したり擬人化したりしたものとも言われています。この「岩戸隠れ」が何を象徴しているのかの解釈は、研究者に任せるとしても「笑いが暗闇の世界に光を取り戻す」ことは、歴史的にも事実だと思います。我々の祖先もそうやって難局を乗り越えてきたのでしょうか。

ある日の朝、正門で登校指導をしていると、二年生の男の子が勢いよく駆け寄ってきて、私の目の前で「おはようございます！」と、勢いよく百八十度のお辞儀をしました。ランドセルには鍵がかかっていなかったのに、案の定、中身が全て飛び出し、散らばってしまいました。「小学生あるある」です。本人に聞いたところ、この一連の行動は、私を笑わせるための計画的なものだったそうです。朝から笑ったおかげで、その日が明るい一日となりました。

校内を巡回していると、一日に何回か、学級から子どもたちの笑い声が聞こえてきます。担任が面白いことを言ったのか、学級の誰かがギャグを披露したのか、いずれにしてもそんな笑い声が聞こえてくると、この緊迫したコロナ禍の中でも安らぎを覚えます。そんなとき「笑いが暗闇の世界に光を取り戻す」は、まぎれもない事実なんだなあと実感します。笑いには身体に対しても精神に対しても、高い治癒力があることは、各種研究によって証明されているところでもあります。とは言え、現在のオミクロン株の感染拡大状況は、かつてないほど緊迫した状況にあります。他県で教員をしている私の知人が嘆いていました。「学校で陽性者や濃厚接触者が出ると、犯人捜しと責任のなすりつけ合いが始まる。保護者・地域・学校、互いの不信感や分断が広がっていく」と。本校では、コロナ感染拡大の第6波が広がり始めて以来、保護者の方々から多くのご相談の連絡を頂きます。そのうちの多くが「(コロナに関連して) 我が子が他の皆さんに迷惑をかけないだろうか」という心配の電話です。また、我が子以外の児童について、風評被害などをご心配してくださる声を頂くこともあります。各ご家庭でも放課後の遊び方や習い事の制限など、感染予防にご尽力頂いていることが伝わってきます。本当に恵まれた環境だと感謝しております。私たちがどんなに注意していても、感染を100%防ぐことは不可能ですし、それは誰のせいでもないと思います。しかし、保護者・地域・学校、互いの不信感や分断は、私たちの連携によって100%防ぐことができるはずです。皆さまのお声を聴くたびに、そう確信しております。

さて、「岩戸隠れ」伝説には、「笑いの力」とは別にもうひとつ、注目すべき点があります。それは、普段はばらばらの八百万の神々が、この大ピンチを乗り越えようと集結し、話し合い、それぞれの能力を生かし、連携して事にあたり、難局を打開したというところです。

コロナ禍の今、歴史や先人の知恵、神話にさえ学ぶことは、たくさんありそうです。